

令和6年度の学校規模適正化の取組について

令和6年度は、昨年度策定した「釜石市立小・中学校における学校規模の適正化・適正配置基本方針」を基に、学校規模の適正化・適正配置の対象となり得る学校を訪問し、各校長及びPTA役員等との意見交換を進めております。

第1回委員会後に実施した意見交換の内容については以下のとおりです。

1 第1回委員会開催後に実施した各校長との意見交換について ※太字部分

No.	学校名	実施日 ※細字で記載した日程での実施内容については、 第1回委員会で報告済
(1)	白山小学校	①令和6年5月27日(月)、②令和7年1月7日(火)
(2)	栗林小学校	①令和6年5月29日(水)、②令和7年1月15日(水)
(3)	釜石小学校	①令和6年5月31日(金)、②令和7年1月9日(水)
(4)	唐丹小・中学校	①令和6年5月31日(金)、②令和7年1月20日(月)
(5)	双葉小学校	①令和6年7月4日(木)、②令和7年1月8日(水)
(6)	釜石東中学校	①令和6年8月1日(木)、②令和7年1月15日(火)
(7)	甲子中学校	①令和6年8月6日(火)、②令和7年1月14日(火)
(8)	大平中学校	①令和6年8月30日(金)、②令和7年1月7日(火)
(9)	釜石中学校	①令和6年9月3日(火)
(10)	平田小学校	①令和7年1月7日(火)
(11)	甲子小学校	①令和7年1月15日(水)
(12)	鶴住居小学校	①令和7年1月15日(水)

【校長からの主な意見等】

①児童生徒数に関して

- ・ 高校進学のことまで考えても、やはりある程度の人数の中で勉強したほうがよいと思う。学校は、ある程度の人数の規模は必要だと思う。
- ・ 学校を統合して、ある程度の人数の中で学ぶ経験は、社会に出る前には必要なこと。できれば各学年で3、4クラスあるべきだと思う。
- ・ 学校を統合しない場合、生徒数が減ってくると色々な活動ができなくなってくることは目に見えている。
- ・ 小規模の学校が大規模の学校と統合される場合は学校としてのメリットは大きい。部活、行事、人の交流など、できることが増える。
- ・ 学校統合が進むと、特別支援学級の生徒が一か所に集まることになり、サポート体制、教室数が十分ではなくなる可能性がある。既存の施設では対応できないかもしれない。学校統合は特別支援が必要な子の数も踏まえて検討したほうが良い。

- ・ 他校に行って部活がしっかりできるなら、学習面では小規模学校でも問題ない。少ない人数の方が一人ひとりしっかり見てもらえると考えている保護者も多い。また、大人数の学校に子を通わせることを不安視する保護者もいる。
- ・ 小規模の学校にも良いところはあるが、やはり人数は多いほうが教育環境的にもよいと思っている。学校にはたくさんの友達がいたほうが良い。
- ・ 統合後の規模の差があると、部活にしても「どうせあそこには勝てない」ということになる。部活自体がどうなっているかはわからないが、中総体も機能しなくなるだろう。小さい規模のまま生き残っていくと、大きな学校にはこれでは敵わないな、となってしまう。
- ・ 次の段階でさらに子供が減っていくことを考えると、ここで反対している場合ではないと思う。一クラス 10 人程度では、クラスとして機能しない。
- ・ 白山小は平田小と統合したほうが人数のバランスは良いと思う。
- ・ 岩手は部活で他の学校と競い合うことが当たり前と意識している傾向がある。競争意識がある。部活は今後地域移行が進んでいくが、部活だけではなく、学力向上や人間関係のことを考えれば、学校はある程度の人数が必要。

②通学・スクールバスについて

- ・ 中学校は、部活があるとスクールバスの対応が大変。帰宅時間が揃わなくなるため。いずれ部活は地域移行し無くなっていくと思うので、将来的には大丈夫だとは思いますが。
- ・ 通学時間が長い家庭は余計に早く起きなければならないなどの負担が発生する。そういったことは学校統合のデメリットになる。
- ・ 遠方から通学する子には配慮、フォローが必要なことがある。家を出る時刻が早いことから、例えば休校のお知らせ等の通知時刻も早めなければならない。

③部活動について

- ・ 部活動の地域移行も同時に検討していく必要があると思う。学校が統合され、通学時間が長くなると、帰宅時間を考慮すると部活をする時間がなくなったりすることも考えられる。
- ・ 中学校は部活の重要性が高い。そのため、他校にあるやりたい部活に参加できるのであれば学校自体は小規模のままでも良いと思う。ただし、それを実現させるのであればスクールバスによる送迎を保証する必要があり、費用は増加するので難しいと思われるが。
- ・ 中学校は学校を選択できれば変わる。部活が目的で釜石中に行きたい子もいれば、部活でサッカー部に入りたいと言って東中を希望する子もいる。

④保護者、地域の声等について

- ・ 地域でヒアリングをしていくことも必要。
- ・ 保護者達からも特に意見が出てくることもない。反対意見が出ない、というよりは統合が当然の流れと考えているのだと思う。
- ・ 保護者は統合には反対しないだろうが、統合の時期については頭がないかもしれない。
- ・ 南部藩と伊達藩の学校が統合するとなると、地域からは異論が出るかもしれない。

- ・ 釜石小の統合は、地域的な要因もありなかなか難しいものがあるかもしれないと感じる。
- ・ 親世代は、統合は仕方がないと思っている。その上の世代がなかなか難しいのではないか。その上の世代の反対意見を聞かされている親世代が、統合に対する意見を正直に言える空気があるかどうか。もしかしたら、統合に賛成しているとは言えない雰囲気はあるかもしれない。
- ・ 子どもがいない年配の方の反対が多い。親世代は、大人数の方が良いと考えている。年配の方は地域から学校がなくなると寂しいという思いが強い。
- ・ 学校統合で実際に関係するのは今学校にいる子たちではなく、これからの子たち。その子たちの親への説明や意見交換も必要。
- ・ 唐丹は地域的に強いところ。伊達藩。地域の声の影響が大きいのではないか。
- ・ これまで統合してきたところを見ると、どこの地域でもやはり地域の声が大きく影響しているようだ。丁寧に進めていかないと、途中で話が曲がって伝わったり話が大きくなってしまったりして混乱してしまうこともあるようだ。
- ・ 釜石小は市のセンタースクール。釜石小の父兄がどう考えているかによるだろう。
- ・ 地域からも統合を進めてほしいという声が上がればいい。釜石小は釜石市のセンタースクールなので、場所や校名が問題になってくると思う。

⑤教職員について

- ・ 生徒数が減少した時に気になるのは学級数と先生の数のバランス。(中学校では)各学年3クラスが維持できていれば何とかなるが、2クラスの学年が出てくるようであればきつい。2学年で教科を受け持つ先生が出てくる。理想は各学年4クラス。4クラスあれば、5教科の先生がそれぞれの学年に配置される。
- ・ 地域のバックアップもあり、先生たちも努力して頑張っているが、少人数の学校は先生の負担が大きい。先生にもゆとりが無ければよい教育を子どもたちに提供できない。

⑥学校間の連携について

- ・ 色々な小学校から一つの中学校に上がってくる場合、こども達の取扱いは大変である。学校によりこども達にも特徴が出るため、小学校が多ければ多いほど生徒指導の面では大変になる。学校の特徴や地域の特徴などを考慮せず人数合わせだけで統合を進めると、こども達の扱いが難しくなる。そのため、同じ中学校に上がる小学校同志の連携や小中の連携が大事になってくる。
- ・ (白山小、平田小は)すでに統合を見越して交流を図っている。R7年度は合同で宿泊学習を行うことにしている。すでに交流を進めていることもあり、先生方も保護者も、両校の統合には抵抗がない。

⑦その他

- ・ 学区を選べるようにしたほうが良いと思う。親の立場からすれば、どうせ中学校は東中に行くなら、小学校も初めから鶴住居小学校に通わせたいと思うこともあるようだ。
- ・ 広域だとバス通学が当たり前で、8時15分登校では間に合わないこともある。もし広域となれば登校時間も変わるだろう。

- ・ 釜石中 1 校で生徒が収まるようになれば、不登校特例校を残すとかいった事も考えられる。不登校は増える一方。減ることはない。
- ・ 特別支援教室も集約して学校を残すという考え方もある。
- ・ 統合は、仕方がない時代の流れ。どこかの時点でやらなければならないこと。
- ・ もし釜石小と双葉小が統合するなら、場所は双葉小で名前を釜石小にすればよいのではないか。位置的にも、その後の小佐野小との統合の可能性を考えればそのほうが良いのでは。
- ・ 白山小はもともと釜石小から分かれた学校なので、釜石小にくつつくのか、平田小にくつつくのかという話が出るかもしれない。
- ・ 元々白山小は釜石小から分かれた学校であり、地域の方は、白山小は釜石小と統合すると思っているのではないか。
- ・ 唐丹小を残すことについては筋が通らない部分がある。市として複式学級を無くすと言っているので、唐丹小も統合するのであれば理屈が通る。
- ・ 統合が決まってから実際統合校がスタートするまでの準備に丸々2年は欲しい。もちろん、統合が決まるまでの合意形成にも時間が必要である。
- ・ 対等統合だと協議して決定していくことが相当あるので、統合が決定してから2年で何とか準備できるというレベル。
- ・ 学校統合の際、「モノ」が大変。無くす学校の物品をどうするか。新しい学校に持っていくもの、残すもの、捨てるものと仕分けが必要。

2 各地区での意見交換会に実施について

No.	相手方	日時	参加者
(1)	橋野町振興協議会	令和6年11月6日(水)	会長
(2)	嬉石町町内会	令和6年11月11日(月)	会長
(3)	松原町町内会	令和6年11月12日(火)	会長
(4)	大平町町内会	令和6年11月13日(水)	会長
(5)	望洋ヶ丘町内会	令和6年11月13日(水)	会長
(6)	唐丹駐在所連絡協議会	令和6年11月25日(月)	会長
(7)	栗林町 町内会	令和6年12月11日(水)	関係者6名
(8)	唐丹地域会議運営委員会	令和7年1月10日(金)	関係者8名
(9)	橋野町 町内会	令和7年1月17日(金)	

【主な意見等】

①地域の声等について

- ・ 統合については、仕方がないことだと思っている人は多いと思う。
- ・ 当時の栗林小のPTAや橋野地区、栗林地区の人は、津波が再び来る心配があるので、鶴住居町中心部への通学を嫌がっていた。
- ・ 過去の経緯を踏まえて地域全体に話をしないと駄目。子どもの人数が減ったという理由で統合を進めるということではなく、昔は色々あったが、少子化の現状や子供たちの学習環境のことを考えた時にこれからどうあるべきかといった事を丁寧に説明して理解してもらう必要がある。
- ・ PTAの考えに合わせたほうがいい。PTAが賛成しているのに周りの人が反対することはあり得ない
- ・ 統合しても、郷土芸能の存続には学校側も配慮してほしい。
- ・ 地域の住民は統合があることを薄々感づいている。教育的にも統合されたほうが良い
- ・ 学力、スポーツの面でもスキルアップするには統合は必要だ
- ・ 学校と地域がどう関わっていくかを考えていかなければならない
- ・ 学校がなくなることについてさまざまな感情はあるだろうが、子どもたちのことを考えると、統合はやむを得ないと思っている
- ・ 統合の話が出ると、はじめから学区を越えて入学させる親が出てくる可能性がある
- ・ 町内の人たちも、統合については理解すると思う
- ・ 地域やPTAでは今後完全複式になる可能性があるという話もしており、適正化は受け入れてもらえるのではないかと
- ・ 子どもたちが切磋琢磨することが大切
- ・ スクールバスなどの対応は工夫してほしい
- ・ 小規模の学校は、「地域の学校」という考えで、地域の皆で関わっていかなければならない
- ・ 現状を見ると、統合はやむを得ないと思う

②児童生徒数に関して

- ・ 統合して当たり前の状況だ。早く統合したほうがいい。少人数の学校、クラスではなく、大人数がいるところにいたほうが子どもたちは伸びる
- ・ 多くの人交流するようであればならない
- ・ 小規模校にも、人数が多い学校にもそれぞれメリット、デメリットがあると思うが、多くの児童と関わることは大切なことと思う
- ・ 学校も人数が少なくなって、いろいろと大変な面がでてきているようだ。例えば環境整備など、平日は働いている保護者が多いので、地域への依存が大きくなってきている
- ・ 子どもの人数が少ないということは、いろいろな面で学べないということ。多くの人と接して、いろいろな思いを抱えて、成長していくことが大事。統合には賛成する
- ・ 子どもの数が減ると先生の数も減らされてしまう。そうになると学校の運営にも影響が出てくる
- ・ 少人数の学校だと卒業までずっと同じメンバーで過ごすことになるが、それだと勉強でもスポーツでも序列が出来あがってしまい、「どうせあの人には勝てない」という気持ちが生まれ、競争心が欠如し、諦めてしまうようになる。あの人には負けたくないという気持ちがなくなる。そのように育つことが心配である
- ・ 違う学校の子や多くの人達の中でもまれる環境がほしい。特に中学生が一番伸びる時期であり、切磋琢磨することが必要。新しい人が入ってくると、それまでの狭い人間関係の中にあつた序列が崩れる。そういったことがあるべき
- ・ 以前6年生が3人の時があつたが、何をするにしても地域の協力が必要だった。学校にはやはり適正な人数が必要
- ・ 今、6年生が1名で、この子はずっと学年1人だったのかと思うと、やるせない気持ちになる。平田小学校との交流も行っているようだが、中学校に入ったときのことを考えると、心配な面もある
- ・ 少人数では部活も大変。地域移行も進むので、これからは部活も地域で支えていかなければならない
- ・ 少人数の学校で育つと、高校で釜石を出た時に他の子どもと競争してやり合っている子に育たない

③跡地利用について

- ・ 残った校舎をどうするかも検討しなければならない。避難所になっている。校庭には照明もある。スポ少の練習場所としても活用されている
- ・ 学校の跡地利用が課題。子どもたちのために考えていかなければ
- ・ 学校の跡地利用も考える必要がある

④その他

- ・ 統合に伴って子どもたちのケアが必要になるのではないかと。統合前から交流事業を行ったり、行事を一緒にしたりする必要があると思う
- ・ 統合することによって、吸収されるというイメージを子どもたちが持たないように、肩身の狭い思いをしないように工夫をしてほしい
- ・ 学童育成クラブの存在も統合と一緒に考えていかなければならないのではないかと
- ・ 統合については、いろいろなパターンを示しながら協議していったほうがいいのではないかと。そのほうが意見が出ると思う

- ・ 高校を卒業すると市外に出ていく子が多い。少子化と人口減少が根本の課題だと思う。現実を踏まえて、学校統合に手を付けていくときだと思う
- ・ 授業参観をして、複式学級の大変さを感じた。子どもたちだけではなく、教える側の切り替えも大変だと思う
- ・ 子どもが減少する現状を見ると、学校規模の適正化・適正配置は進めなければならないと思う。地域や保護者に理解してもらって進めなければならない。その際、ただ学校をくっつけるという方針ではなく、統合してどういった教育を進めていくかということを示さなければならない
- ・ 中学校は9クラス以上が理想ということであれば、交通網が整備されたので、将来的に市内で1校でもいけるのではないか。スクールバスだけどうにかすれば大丈夫だと思う。そうやって子どもが集まれば切磋琢磨できる環境になると思う。中学生が一番伸びる時期であり学習以外での経験も必要
- ・ 児童生徒が幸せになることを考えて、大きな見地からの統合を希望する

3 こどもの意見聴取について

No.	相手方	日時	参加者
(1)	甲子中学校	令和6年11月29日(金)	2年生 33人
(2)	唐丹中学校	令和7年1月16日(木)	予定
(3)	大平中学校	令和7年1月17日(金)	予定
(4)	釜石中学校	未定	
(5)	釜石東中学校	未定	

【主な意見等】

- ・ 自分が学校にいる時は統合しないかもしれないけど、統合するとなったら通学路などをしっかりと考えてもらいたいと思いました
- ・ 学校統合すると、友達が増えるけど距離が遠くなるのでいい所と悪い所があるとわかりました
- ・ 釜石市の教育面での現状が分かりました。釜石市内の中学校が一緒になったら、私たちにとって色々な良いことがあると思うので、個人的には一緒になってほしいです
- ・ 釜石は全部の学校で人数が減っていつていることがわかった。学校の生徒が減るとやりたいスポーツができなくなったり、先生の人数も減ることに驚いた
- ・ これから市内の小中学生が大幅に減ることを知り驚きました。自分たちには関係ないと思っていましたが話を聞いて自分たちにも関係あるんだなと感じました
- ・ 現在釜石市では少子高齢化が進んでいることは知っていたけれど、小中学校が減るほどだとは思っていなかったのが驚いた。もし実現したら学校が遠かったりしてとても大変だと思った
- ・ これから釜石市の人口がどんどん減っていき、統合する時がいつか来ると感じました。統合もそんなに遠い話ではないと思いました。全校の人数が少なくても、多くても、メリットやデメリットがあることを知ることができました
- ・ これからの学校生活がどのように変化していくのか理解した。学校統合は少し不安があるけれど、これからの釜石のために前向きに取り組んでいこうと思った
- ・ 釜石市のこどもの人数が減っていつてしまい、数年後にはもっと減ってしまうことを知って、とてもびっくりしました。学校を統合するかどうかは分からないけど、メリットやデメリットを知って、これからの釜石市について、どうなるか興味を持つことができました